

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十二主日礼拝のしおり

2021年8月15日

前奏：

招きのことば：詩編 34 編:9-11, 18-19, 22 節

味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。
主の聖なる人々よ、主を畏れ敬え。主を畏れる人には何も欠けることがない。
若獅子は獲物がなくて飢えても主に求める人には良いものの欠けることがない・・・
主は助けを求める人の叫びを聞き 苦難から常に彼らを助け出される。
主は打ち砕かれた心に近くいまし 悔いる霊を救ってくださる・・・
主に逆らう者は災いに遭えば命を失い 主に従う人を憎む者は罪に定められる。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も礼拝に導いてくださりありがとうございます。私たちは共にあなたの御言葉をいただいて新しい一週間を始めます。あなたは私たちのもとにイエス様をつかわしてくださいました。イエス様を信じる信仰をお与え下さり、私たちをいつもイエス様のうちに、またイエス様が私たちのうちおらせてくださいます。すべての罪を赦していただき、新しいいのちに生かしてくださいます。今週も毎日の生活の現場にて、あなたの導きと支えを経験し隣人の力になっていけるように、私たちが鍛え用いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：エペソの信徒への手紙 5章 15-20節

愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ、霊に満たされ、詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 6章 51-58節

わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

讚美歌 301番

1. 山べに向かいて我目をあく 助けはいずかたより 来たるか
天地(あめつち)の御神(みかみ)より 助けぞわ我に来たる

2. 御神は汝(なれ)の足を強くす み守りあれば汝(なれ)は動かじ**御民(みたみ)をば守るものまどろみ眠りまさじ****3. 御神は仇(あだ)を防ぐ 盾なり 汝(な)が身を常に守る かげなり**

夜は月、昼は日も 汝(なれ)をばそこなうまじ

4. 御神は災いをも避けしめ 疲れし魂をも休まず**出ずるおり、入るおりも たえせず汝(なれ)を守らん アーメン****説教：「わたしによって生きる」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はご自分を、天からくだってきた生きたパンです、と言われました。このパンを食べる人は永遠に生きる、とも言われました。

イエス様はかつてモーセがイスラエルの民をエジプトから導き出し、40年間荒れ野をさまよったとき、空腹を訴える民に神様が天からマンナと呼ばれたパンを降らせたこととご自分のことを照らし合わせて語られました。マンナを食べて、人々は命をつなぎました。しかしその人々も寿命が来ると死にました。しかし、同じく天から降ってきたイエス様を食べる人は、永遠に生きます。

人々はこれをきいて、イエス様はどのようにしてご自分の肉を食べさせることができるのか、と互いに議論を始めました。また、今朝ここに集う私たちに一体どんな意味があるのでしょうか。

イエス様はすぐにお答えになりました。まことの食べ物、まことの飲み物であるイエス様の肉をたべ血を飲む人は永遠のいのちを受け、イエス様はその人を終わりの日に復活させてくださると言われました。

先週に続いてこの豊かなイエス様の言葉を味わってみましょう。

1) 世を生きするためのわたしの肉

イエス様は、ここヨハネによる福音書6章51節でご自分のことを天から降ってきたまことのパンと言われ、わたしが与えるパンとは世を生きするためのわたしの肉のことであると言われました。

神さまの独り子であるイエス様が、私たちのところに来てくださったということをおっしゃっています。人として生まれ、人として歩まれました。不条理を受け入れ、苦しみに耐え、限界も経験され、誘惑にさらされた。ただしく歩んでくださいました。自己中心で罪深い私たちが

神様のところに自ら行くことはできません。神様は隠れた思いも行いもすべてをご存じですので、私たちはそのまま神様にお出会いするときよい神さまに裁かれてしまう恐れをもっています。

神様に造られ、神様に支えられているのに、私たちの心は遠く神様から離れ、自分の関心、自分の損得、自分のプライドが満たされることに向けられています。自分が認められること、自分が人や物事を思い通りにすること、自分の好むことを達成したり自分が好きなようにストレスを発散することを求めています。自分が、自分が、自分が、と思うことが普通のこととなっています。また同じように考えている人々の間で日々暮らしています。神様を愛すること、人を大切にすることは心に余裕があったらいつか考えることになっていますね。

でもどこかで神さまを求めています。困ったときには、虫のよい話だ、とわかりつつも助けてほしいと願っています。自分の大切な人のために力を貸していただきたいとも思っています。そしてこのような自分がいつも神様に覚えていただいている、顧みていただくことは無理だとも思っています。私たちから神様に近づくのは無理です。自分で自分の心を変えることができません。どんなに神様に喜ばれるであろうことをしても本当の神さまが喜んでくださる保証はありません。

神さまは自分から神様のもとに来ることができなくなっている罪びとである私たちのために、イエス様は人として私たちに送って下さいました。神様が私たちのところに来てくださったのです。それは歴史的出来事でもあります。2000年前のクリスマスにイエス様がお生まれくださいました。ヨハネ1章14節に独り子の神が肉をとられたとありますように、イエス様は神さまですのに肉体を取られて私たちの間に住まわれました。

イエス様は私たちの罪を裁くためではなくて赦すために来られました。私たちが恐れている神様の裁きをもたらすためではなくて、その裁きを私たちの身代わりに受けて下さるために来ました。イエス様はきよいお方ですが、汚れた私たちの罪を裁いて死をもたらすために来られたものではありません。当時の罪びとと呼ばれる人々と交わり、ともに食事をし、ともに歩まれました。人々はイエス様に裁かれる、という予感も恐れをも持つことなく、イエス様がおいでくださったことを喜びました。まことの神さまであるイエス様は人間の肉をとって私たちのところに来てくださったのです。イエス様に会う人は、イエス様に罪を責められて苦しむよりも、自分の罪をなんと神の御子イエス様が担ってくださった驚くべきことに会うのです。それは神様が私たちを赦して、神様の子どもにしてくださいるためです。私たちは自分の罪のために神様のもとにいけません。しかし、神さまは独り子イエス様を人として私たちのところにお送りくださいました。私たちが神様のところに行くのではなく、イエス様が私たちのところに来てくださったのです。私たちの罪を責めて死と滅びに定めるためではなく、私たちの代わりに罪を担い、ただしく神様から裁かれて、私たちを神の子どもとするためです。ここに神様の具体的な愛があります。そして私たちの希望、確信、感謝があります。

2) イエス様のもとに来てイエス様を信じる

ではイエス様の肉をたべ血を飲むとはどういうことでしょうか。少しさかのぼってヨハネによる福音書6章35節を見るとイエス様は「わたしが命のパンである。わたしのもとに来るものは決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない」と言われました。

イエス様の肉を食べイエス様の血を飲むとは、イエス様のもとに来てイエス様を信じることです。私たちのために天から降ってきてくださったイエス様のもとに来て、私たちの罪を赦し神の子どもとして下さるイエス様を、わたしのためです、と信頼して受け入れることです。

神さまが私たちのためにイエス様を送ってくださいました。そのイエス様が私の罪のために十字架にかかってご自分の肉体をもって命を与え、血を流して苦しんでくださって死んでくださったことをこれ以上ない感謝をもって信頼することがイエス様の肉を食べ、血を飲むことです。

私たちは普通の生活をしているとき、すべてうまくいっているときは万能感に満たされて、自分は何者かであるかのように思います。しかしものごとが思い通りにいかなかったり、人生に躓いたりしたとき、私たちが絶望的になって諦めてしまうか、どうして自分にだけこのような苦しみがあるのか、と心で誰にともなく怒っているときに、真実の自分の姿を見せられます。人生の限界があることに気がきます。偶然が重なって自分の努力が認められ、うまくいくことを望む私たちですが、自分の力でどんなにあがいてもどんなに努力してもどんなに自分を信じてがんばってみてもだめなものだめだと気付くときがあります。よいときも、苦しい時も、共通しているのは自分しか見ていないこと、見えていないことです。

追い詰められると自分を越えた力にすがりたくもなります。それでも自分ではまっすぐ神さまのもとにこれません。自分で神さまを想定し造り上げて熱心に身勝手に拝んでみたりして気休めをします。自分で神さまに喜ばれるであろうと思うことを没頭して行い、自分の分は果たしたので神さまよろしくおねがいいたしますといわんばかりに取引きのようなお祈りをしたりします。けれどもそれは結局確信の伴わないことです。自分で想定しているだけだからです。何とか自分から神様のもとに行きたいという思いの表れでしかありません。あわよくば神様を自分の思い通りに操作したいというずるいことさえ思っています。

神さまはそのような私たちのどうしようもない本質をご存じです。神様から離れてしまい、徹頭徹尾自分中心でわがままな私たちをご存じです。私たちの本質は自分中心でわがままな罪びとです。試練のときによくわからせていただきます。

イエス様は私たちのところに来てくださいました。私たちの願いを聞いてくださいます。イエス様は遠くまでイエス様のお話を聞きにきて、夕食に困っている人々に、パンと魚を満腹するまで、好きなだけ与えてくださいました。私たちの願いを喜んで聞いてくださいます。しかしそれで終わらず、ご自分がいのちのパンであることをお示しくくださるのです。私たちは自分で

神さまに喜ばれる期待を捨て、私のために来てくださったイエス様に「どうぞ罪深い私をあわれんでください」と信頼するのです。

3) イエス様の内におり、イエス様が内にいてくださる

イエス様はあなたのところに今朝もみ言葉によって来てくださっています。そしてあなたの罪をご自分の犠牲によって赦してくださいました。なんと感謝なことでしょうか。

56節でイエス様は「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲むものはいつもわたしのうちにおり、わたしもまたいつもその人のうちにいる」とおっしゃいました。

イエス様のゆえに神様に罪赦されて神さまの子どもとして歩むことは、イエス様のうちにあつて暮らすことです。イエス様の赦しのうちにあります。イエス様によって私たちは神様を神様として恐れつつも、私を大切に思い私のために救い主イエス様をお送りくださった方として感謝をし、愛し、信頼します。

イエス様を信頼して歩むことは、また、イエス様が内にいてくださることです。あなたを赦しあなたを生かす方が内にいてくださるのです。自分中心な生き方は終わりました。それによってほんとうの人生は送れないからです。自分のまわりのことを自分の都合にあわせてみることはできません。自分中心ではなく、内にいてくださるイエス様中心に生きます。イエス様が愛されている隣人のために、私たちもわかってもらえなくても、すぐに感謝をされなくても、神様の祝福を受けるように祈り、役に立ち、ともに成長していきます。

私たちは今週もイエス様のうちにおらせていただきます。またイエス様に私たちのうちに生きていただきます。自分中心の思いから解放されて、生きるために置かれたそれぞれのところで人々を大切に、役に立って歩みましょう。そのために真剣に自分を鍛え、神様に育てていただきます。今週も終わりの日に続くすばらしいいのちを生きていきましょう。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。」ヨハネ 6:54

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

讚美歌：298番 献金 献金感謝の祈り

1. やすかれ、わが心よ、主イエスは共にいます。痛みも苦しみをも 雄々しく忍び耐えよ
主イエスのともにませば、耐ええぬ悩みはなし
2. やすかれ、わが心よ、波風 猛るときも、父なる天(あま)つ神の みむねに委ねまつれ
み手もて導きたもう 望みの岸は近し

3. やすかれ、わが心よ、月日のうつろいなき み国はやがて来たらん
うれいは永久に消えて、かがやくみ顔あおぐ いのちのさちをぞ受けん **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏